

問1 魚市場で行われる「せり」には、どのような役割がありますか。

1. 買い手と値段を決めること 2. 魚をきれいな水で洗うこと 3. 魚を冷たく保存すること 4. 魚の骨を取り除くこと

問2 大都市の近くで、消費者の好みに合わせて新鮮な野菜をたくさん作り、トラックを使って素早く届ける農業を何とといいますか。

1. 促成栽培 2. 近郊農業 3. 茶の栽培 4. 抑制栽培

問3 畜産のなかでも、特に乳牛を飼育し、牛乳やバターなどを生産する仕事を何とといいますか。

1. 促成栽培 2. 酪農 3. 水産業 4. 林業

問4 標高が高く、夏でもすずしい気候を利用して、キャベツやレタスを育てる農業を何とといいますか。

1. 近郊農業 2. 抑制栽培 3. 高冷地農業 4. 促成栽培

問5 昔と比べて魚の生産量が減っている中で、養殖漁業がさかんに行われるようになった一番の理由は何ですか。

1. 魚を計画的に育てて、安定してとどけるため 2. 魚を大きく育てるためのえさを海から集めるため 3. 他の漁業よりも働く時間が短くてすむため 4. 海を汚さないため

問6 農業試験場が、地元の農家のために行っている活動として正しいものはどれですか。

1. 地域の気候に適した栽培技術や新しい品種を研究する 2. 農作物の価格を全国一律に決める 3. 農作物を安く買い取ってスーパーへ売る 4. 農家から集めたお金を貯金したり貸し出したりする

問7 畜産で生産されるもの（つくられるもの）の組み合わせとして、正しいものはどれですか。

1. 肉や牛乳、卵 2. 魚や貝、わかめ 3. 野菜や果物、米 4. 木材や炭、きのこ

問8 国や自治体が、魚の量や期間を制限するような「漁獲規制」を行う一番の目的は何ですか。

1. 将来にわたって魚をとり続けるため 2. 魚の値段を高くするため 3. 新しい漁場を発見するため 4. 外国との貿易を活発にするため

問9 地産地消を行うことで、どのような良い効果がありますか。

1. 農作物の値段を、全国どこでも同じにすることができる 2. 農作物を運ぶトラックの燃料を減らし、環境を守ることができる 3. 大都市にある大きなスーパーに、たくさんの商品を並べられる 4. 外国との貿易を活発にして、いろいろな国の食べ物を増やせる

問10 人工的に育てた稚魚を、ある程度の大きさになるまで守ってから海や川に放し、自然の中で成長させてからとる漁業のことを何とといいますか。

1. 栽培漁業 2. 遠洋漁業 3. 沖合漁業 4. 養殖漁業

問11 促成栽培のやり方や特徴について説明したものとして、正しいものはどれですか。

1. 農薬や化学肥料にたよらないで、自然の力だけで野菜をつくる。 2. ビニールハウスなどの施設とあたたかい気候を利用して、早い時期に野菜をつくる。 3. 同じ土地で、1年のうちに2種類の異なる作物を順番につくる。 4. すずしい気候を利用して、ほかの地域よりも遅い時期に野菜をつくる。

問12 牛やぶた、にわとりなどを飼って、肉や牛乳、卵などを生産する仕事を何とといいますか。

1. 畜産 2. 酪農 3. 水産業 4. 栽培漁業

問13 生産者が育てた野菜や果物を、スーパーマーケットなどの間に入るお店を通さずに、お客さんに直接売る場所を何とといいますか。

1. 直売所 2. 自動販売機 3. デパート 4. コンビニエンスストア

問14 長野県や群馬県などの涼しい地域で、夏の涼しい気候をいかしてキャベツやレタスを育てる主な目的は何ですか。

1. 雨がほとんど降らない地域で、水を節約しながら育てるため 2. 広い土地に一度に機械で種をまき、人手をかけずに収穫するため 3. 本来の旬とはちがう時期に出荷して一年中食べられるようにするため 4. 冬の寒さにたえられるように、ビニールハウスであたためて育てるため

問15 農家の人々が集まって、農業のやり方を教え合ったり、農作物をまとめて売ったりする組織のことを何とといいますか。

1. 農業協同組合 2. 農業試験場 3. 農村自治会 4. 農家連合会

問16 農家が収穫したお米を、市場などを通さずに消費者のもとへ直接送る販売方法を何とといいますか。

1. 市場経由 2. 産地直送 3. 卸売販売 4. 輸入販売

問17 漁港の近くに建てられている、水揚げされた魚を競りにかけるための施設を何とといいますか。

1. 貯水池 2. 加工工場 3. 魚市場 4. ビニールハウス

問18 栽培漁業において、わざわざ稚魚を育ててから自然の中へ「放流」するのはなぜですか。

1. 海や川の水をきれいに掃除してもらうため 2. 魚が小さいうちに食べられないように守り、漁業資源を増やすため 3. 魚を人間に慣れさせて、とりやすくするため 4. えさ代を浮かせて、より安く魚を売るため

答え合わせ・解説 No.3

| | | |
|-----|---|--|
| 問1 | 答え 1 買い手と値段を決めること | せりは、漁業者が持ってきた魚に対して、買い手が希望する値段を出し合い、最終的に誰がいくらで買うかを決める仕組みです。この仕組みがあるおかげで、魚の値段が公正に決まり、スムーズに各地へ運ばれていくことができます。 |
| 問2 | 答え 2 近郊農業 | 大都市の近くで行われるこの農業は、消費者に新鮮な野菜を届けることが大切です。そのため、トラック輸送などを利用して、大都市の人々が求める野菜を計画的に出荷する工夫がされています。 |
| 問3 | 答え 2 酪農 | 畜産のうち、特に乳牛を飼って牛乳やバター、チーズなどの乳製品を生産する仕事を酪農といいます。 |
| 問4 | 答え 3 高冷地農業 | 標高が高い場所にある高原などは、夏でも気温が低くすずしいため、暑さを苦手とする野菜を育てるのに適しています。このような気候の特徴を活かした農業を高冷地農業と呼びます。 |
| 問5 | 答え 1 魚を計画的に育てて、安定してとどけるため | とる漁業だけでは魚の数が足りなくなってしまうこともあるため、施設を利用して自分たちで計画的に育てることで、いつでも安心して魚を食べられるようにするのが養殖漁業の大切な役割です。 |
| 問6 | 答え 1 地域の気候に適した栽培技術や新しい品種を研究する | 農業試験場は、農家が抱える「病害虫を減らしたい」「もっと収穫量を増やしたい」といった悩みを解決するために、科学的な実験や調査を行う場所です。お金の管理や農作物の販売は、主に農業協同組合（JA）が行う役割です。 |
| 問7 | 答え 1 肉や牛乳、卵 | 畜産は、牛やぶた、にわとりなどを飼うことで、肉や牛乳、卵などを生産する仕事です。 |
| 問8 | 答え 1 将来にわたって魚をとり続けるため | 一度にたくさんの魚をとってしまうと、魚が十分に育ったり増えたりする前にいなくなってしまう。将来もずっと安定して魚をとれるように、今とる量を調整して、海にいる魚の数を守ることがこの取り組みの大切な理由です。 |
| 問9 | 答え 2 農作物を運ぶトラックの燃料を減らし、環境を守ることができる | 地元で生産されたものを地元で消費することで、遠くまで運ぶ必要がなくなります。これにより、トラックなどが排出する二酸化炭素を減らせるため、地球環境を守ることにつながります。また、地域の農家が元気になり、地域の産業が活性化するという良さもあります。 |
| 問10 | 答え 1 栽培漁業 | 栽培漁業は、稚魚を放流して自然の海や川で育てる手法です。これに対して「養殖漁業」は、いけすなどの施設の中でえさを与え、完全に人の手で管理して育てるという違いがあります。 |
| 問11 | 答え 2 ビニールハウスなどの施設とあたたかい気候を利用して、早い時期に野菜をつくる。 | 促成栽培は、ビニールハウスなどの施設とあたたかい気候を利用して、早い時期に野菜をつくって出荷する工夫です。 |
| 問12 | 答え 1 畜産 | 牛やぶた、にわとりなどの家畜を飼育して、肉や牛乳、卵などを生産する仕事を畜産といいます。 |
| 問13 | 答え 1 直売所 | 生産者が自分で育てた農産物を、卸売市場やスーパーマーケットなどの間に入るお店を通さずに、消費者に直接売る場所を「直売所」といいます。収穫したばかりの新鮮なものが手に入ることや、生産者の顔が見える安心感があることが大きな特徴です。 |
| 問14 | 答え 3 本来の旬とはちがう時期に出荷して一年中食べられるようにするため | 夏の涼しい気候を利用して、ふつうの地域では野菜が育ちにくい時期に栽培することを「抑制栽培（よくせいさいばい）」といいます。これにより、本来の旬とはちがう夏の間にも、新鮮なキャベツやレタスを消費者に届けることができます。 |
| 問15 | 答え 1 農業協同組合 | 農業協同組合（JA）は、農家同士が協力して農業経営を良くしていくための組織です。共同で肥料などの材料を買ったり、育てた作物を販売したりすることで、個人の農家だけでは難しい活動を支え、地域の農業全体を発展させる役割を担っています。 |
| 問16 | 答え 2 産地直送 | 生産者が育てた作物を、市場や問屋を通さずに消費者に直接届ける仕組みを「産地直送」といいます。間にはさまる業者を減らすことで、新鮮な状態のまま消費者に届けたり、生産者の顔が見えて安心感を持ってもらえたりするなどの良い点があります。 |
| 問17 | 答え 3 魚市場 | 獲れたばかりの魚が集められ、値段を決める「競り（せり）」が行われる場所のことです。ここで決まった魚が、日本各地のスーパーやお店へ運ばれていきます。 |
| 問18 | 答え 2 魚が小さいうちに食べられないように守り、漁業資源を増やすため | 稚魚の時期は他の魚に食べられやすく、自然のままでは生き残る数が少ないことがあります。そのため、施設で安全に大きく育ててから放流することで、海や川にいる魚の数を効率よく増やし、安定して漁獲できるようにしています。 |